

学びがつなぐ日本とバングラデシュの絆

日本は2022年2月にバングラデシュ政府との外交関係樹立50周年を迎え、2023年3月にはJICAによる開発協力開始から50周年を迎えました。教育分野においては、専門家やボランティアの派遣、技術協力、研修員受け入れなど、様々な形でバングラデシュ政府と協力をしてきました。JICA長期研修員制度を活用して日本で学んだバングラデシュ政府関係者は、帰国してバングラデシュの初等教育の中核人材として活躍し、教育改革の推進に貢献しています。

初等教育における支援20年の歩み



支援実績

現場に根差した多面的な教育支援



バングラデシュ政府からのメッセージ

JICAによる過去20年間の初等教育分野への技術協力と支援は、バングラデシュにおける教授・学習プロセスや学校運営に前向きな変化をもたらしました。授業における児童の主体的な参加や、教師の専門能力開発における協働は、JICAの技術支援によって達成された主要な成果です。児童と教師双方の継続的な学びの質の向上に対するJICAの多大なご支援に、心より感謝申し上げます。（初等大衆教育省初等教育局 局長 Abu Noor Md. Shamsuzzaman氏）

JICAからのメッセージ

JICAは、バングラデシュの初等理数科教育の改善に向けて、これまで20年にわたり、バングラデシュ政府とともに様々な教育事業を実施してきました。特に技術支援では、技術協力プロジェクトや海外協力隊、教育アドバイザーを通じて教育現場から政策レベルまで幅広く活動し、カリキュラムや教科書の改訂、授業の進め方の改善等を通じて、子ども中心の学びを重視した理数科教育の実現に貢献してきました。今後、20年間の取り組みがバングラデシュの人びとの手によってさらに広がり、初等教育全体の更なる発展に繋がっていくことを期待しています。（国際協力機構 人間開発部 基礎教育グループ 次長 松山剛士）



2004-2024年

教科書・教材開発を中心とした学びの改善

JICA バングラデシュ 初等教育支援 20年の軌跡



すべての子どもが能動的に学び、
基礎的な学力を身につけ、
自らの可能性を発揮できるように――
JICAは2004年から20年にわたり、
バングラデシュの初等教育の改善に
取り組んできました。

JICAの初等理数科教育支援 ～すべての子どもに、より良い学びを～

背景

バングラデシュの子どもに学びの機会を届けるために

バングラデシュ政府は1990年に「万人のための教育」宣言に署名し、初等教育を義務化しました。その結果、初等教育の就学率は大きく改善しましたが、約3分の1の子どもたちが小学校を修了する前に中退していました。また、小学校を修了しても基礎的な学力が身についていないという課題がありました。こうした課題に対応するため、JICAは2004年からバングラデシュ初等理数科教育への支援を開始しました。

課題

当時の理数科教育の抱える問題点

1. 暗記中心のカリキュラム

- ・算数の思考力を育てる機会が少ない
- ・科学の考え方を学ぶ実験や観察の機会が少ない

2. わかりにくい教科書

- ・難しい言葉が多い
- ・学習目標がわかりにくい
- ・内容のつながりが分かりにくい
- ・図や例が少なく、イメージしにくい

3. 子どもが受け身の授業

- ・教師が話すだけで、子どもが考える時間が少ない
- ・話し合い、発表、実験などが少なく、子どもが積極的に参加できない

アプローチ

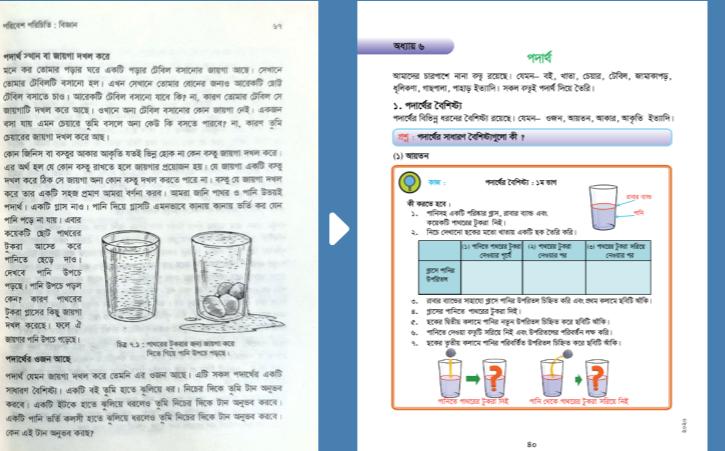
カリキュラム・教科書・教材開発、教師の能力強化を通した包括的な支援

暗記から探求へ 理数科カリキュラムの見直し

知識を覚えるだけでなく、考えて問題を解く力を育てるために、カリキュラムの改訂を支援しました。

自分で学べる教科書づくり

分かりやすい言葉や見出し、考える活動を取り入れ、子どもたちが自分で学べる教科書の作成を支援しました。JICAの支援した教科書は、約1億4千万人の子どもたちの手に渡っています。



学び合い、成長する教師たちを支援

日本発祥の授業改善のアプローチである「授業研究」を導入しました。JICAは、授業研究マニュアルの開発や教師への研修を通して、バングラデシュの教師同士が教え合い、学び合って授業改善を行う仕組みづくりを支援しました。現在はバングラデシュの教師研修制度に組み込まれ実施されています。



心を動かすドラマで意識改革

教師の成長を描いたドラマ「Rupantar Kotha」は、多くの教師の共感を呼び、授業を良くしたいという思いを引き出しました。



成果

子どもが自ら考え、学ぶ楽しさを実感できる授業への変化

JICAの支援により、教師が一方的に話す講義型の授業から、子どもが主体的に学ぶ授業へと変化しました。観察・実験・調べ学習などを通じて、子どもたちは自ら考え、学ぶことの楽しさを実感しています。

ペアやグループで意見を出し合いながら学び合い、理解を深める授業が広がっています。

また、教師たちは教材や教具を工夫し、手作りのポスターや実験道具を活用することで、子どもの学びをより深める授業づくりを進めています。子どもが発表や話し合いを通して、自信を持って表現できる力も育まれています。

教師の工夫で伝わる授業に



手作りの教材やポスターが、子どもたちの理解をサポートしています。

実験・観察で学びを深める



グループで協力しながら観察・実験に取り組み、探究心を育てています。

話し合いから広がる学び



仲間との意見交換を通して、自分の考えを深める姿が見られます。

考えを伝える力を育む



発表の機会を通じて、自信を持って自分の意見を表現できるようになりました。

理科の授業ではみんなと実験をするのがとても楽しいです

理科の授業を通して手洗いや体を清潔にすることなど、生活で大切な知識を学ぶことができます

子どもたちの声

買い物をするときや
数を数えるときに
算数が役立ちます

算数の授業では先生がわかるまで何回も教えてくれます。楽しい活動がたくさんあって算数が好きになりました

新しい教科書は子どもたちの生活と関連していて、子どもたちが学びやすい教科書です
教師用指導書には、授業の進め方や学習目標が分かりやすく整理されていて、授業づくりの頼もしい味方です

教師たちの声

同僚や校長と意見を交わしながら、子どもたちにとって分かりやすい授業を目指しています